



あゆみ

青梅市立河辺小学校 学校便り

5月号 No. 691 令和7年5月1日

青梅市立河辺小学校 校長 関谷 望



第2スタート（リスタート）の時期 ～「新」から「真」へ～

校長 関谷 望

令和7年度がスタートして1か月が過ぎました。新1年生を迎え、新6年生が生き生きとお世話のために1年生教室に通う姿を始め、どの学年も「新〇年生」として、張り切って学校生活に取り組む様子がたくさん見られた1か月となりました。

4月は「年度初め」ですので、日常生活の中でも「新社会人」の方や、（その立場の）「新人の方」を目にしたり、学校でも新1年生、新〇年生と「新」を付けて紹介したりされたりすることが多くあります。この場合の「新」には、もちろん「新しくその立場になったことへのお祝いや励まし」や「初々しさ」「フレッシュさ」などの気持ちも込められていますが、「なったばかり」「見習い」「未熟」という意味合いもあるかと思います。

私は担任をしていた頃、「この『新』っていつ頃取るのが適切なのかな」と考えたことがあります。高学年を担当することが多かったのですが、新6年生としてぎこちなく新1年生と手をつなぐ初々しい姿だった子が、卒業式のころには「みんなが認めるリーダー」へと成長している姿をたくさん見てきました。また、年度途中にも「ぐっと成長したな」と驚かされるような場面が急に増えてくる時期があり、「子供の1年間の成長ってすごいな。いつまでも『新』って付けているのは失礼かな」と思うことがあったからです。

学校生活では、やはり1か月程度が過ぎた、この5月の大型連休明けの頃かなと思います。この時期になると、新学期がスタートしたころの緊張や不安から解放され、落ち着いて毎日が過ごせるようになります。反面、「新学年がスタートしたから、頑張ろう」という気持ちは少し弱まりやすい時期になります。また、新学期の張り切りや緊張から知らず知らずのうちに疲れが蓄積してその反動が出ることもあります。（昔から「5月病」などという言葉もありますね）

5月は「第2スタート（リスタート）」に最適の時期です。

中には、4月のスタートの時期に「うまく乗れなかった」という子や、「4月にもっとこうしておけばよかった」と感じている子もいるものです。（私を含め、大人も。）

私は、河辺小の先生方にはよく「リスタート（再スタート）は何回でも、いつでもできる」とお伝えしますが、まだまだ年度は始まったばかり、これから活動的な季節へと向かう「5月の大型連休明け」はその最適期であると思います。

5月が、「新〇年生」の「新」が取れて「真の〇年生」へと成長していくスタートの時期となるよう、子供たちの気持ちを学校と家庭・地域で支えていけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

大型連休期間中、個人面談（希望制）期間ともなっており、4時間授業も多くあります。子供たちが放課後や休日に活動できる時間が多い時期です。事件・事故にあうことなく、安全で有意義な時となりますよう、お子さんへの声掛け等どうぞよろしくお願いいたします。